

平成24年4月21日（土） 久先生の講評

まず、一番初めに小田部長からのごあいさつの中にもございましたけれども、この審査会の時に「目的・目標が明確であれば報告の時も楽ですよ」というお話をさせていただきました。もう一度、皆様方が申請の時に書かれた申請書の一番初めに書かれている「目的」は何だったのか？という事を確認していただいて、今回の報告会に望んでいただけたかどうかという事の再確認を、それぞれの団体さんにしていただければと思っています。

こういう事をやりました、何人集まりました、という事だけではなくて、当初考えていた「目的」・「目標」というものがどれだけ達成できたのか、そして、残った課題は何なのか？という事をやっていただくと、私たちも非常にわかりやすく、聞いていただく方にも伝わりやすかったと思います。

なぜ、その確認をさせていただくかと言いますと、また6月に申請がございまして、まだチャンスのある団体さんがたくさんございますので、今回はこのあたりも意識をしていただいて、「目的」・「目標」をしっかりと定めて申請をしていただければ、活動の最中そして、報告会も受けやすくなるのではないかと思います。

再度、もう一度確認させていただきますと、「目的」・「目標」と言いましたけれども、「目的」というのは、到達する遠い将来と言いますか、これをめざして行くというのが「目的」だと思います。

「目標」というのは、もっとこじんまりと、今年一年の事業でどこまで行くのかというのが「目標」だと思いますので、遠い将来の事と今年一年の事業の中でどこまで行きたいという「目標」と、これをうまく組み合わせていただいたら、わかりやすくなりますし、その目標が明確でしたら、それが達成できたかどうかというのが、常に確認がとれますので、そこを切り分けていつも活動をお願いしたいと思います。

特に、単発のイベントもたくさんありましたけれども、この単発のイベントの場合は、イベントをやった達成感みたいなものがあるのですが、実は、イベントというのはイベントのためにやっているだけじゃなくて、他の目的を達成するための一つの手段として、イベントをやっている訳ですので、そこを「何のためにやっているのか？」という事を、確認をしていただければと思います。

例えば、先ほど、まつり家会さんが、いみじくもおっしゃっていただいたように、この事業を使うことによって自分たちの認知度がぐっとアップして、たくさんのお呼びが掛かるようになりましたとおっしゃってましたけれども、そういう意味では、イベントは広報のためにやっているのかもしれないし、あるいは寄附を、あるいは会員になっていただけの方を増やしていくための手段としてやっているのかもしれないし、何かそういう目標をきちんと定めてイベントをやっていただけたらありがたいなと思います。

ついでには、一番のポイントというか、目標をいかに今後、自分たちの事業あるいは自分たちの団体の自立へ向かって進んでいくかということだと思います。

この助成金は3度限りですので、その後どうするかというところを自分たちで考えていけないといけない訳です。

そうすると、知名度をアップすることが、お金に変わるということが非常に重要であり、そこを常に意識していただかないと、いつまでも無償ボランティアのような、サービス精神だけでは事業は長続きしませんし、自分たちの持ち出しでやっていけないといけないというしんどさがどんどん増えていくだけになってしまいますので、常にそのあたりは意識をしていただければと思います。

先ほどのコメントの中でも申し上げましたように、私たちは社会のために自分たちは持ち出ししてもいいからがんばるんだ、というような割り切り方もありますが、やっぱりお金をいただきながらやっていかないと長続きしないという考え方もありますので、どっちでうちの団体は事業を行うのかという事を決めてやっていただくと、よりわかりやすくなると思います。

ついては、ちょっとお金儲けの仕方という話をさせていただきますと、今日の団体さんは、大きく2つのタイプの事業に分かれると思います。場の設定、場の提供といって、たくさんの方に集まっていただいて、楽しんでいただくようなタイプの事業があります。この場合は、コメントの中にもありましたように、出費とその出費を参加人数で割っていた適切な参加料というのがあるはずですよ。

そこで、できるだけ赤字の出ないように工夫をしていただかないと、長続きする活動にはなりませんので、「いや500円やったら高いんちゃうやろか、参加者が減るんちゃうやろか？1000円だったらだれが来てくれるんやろか」、というような事で200円とか1000円という参加費を設定してしまうのですが、実はそれは自分たちの首を絞めているだけの話で、費用を適正に払っていただける方と一緒にやっていきませんと、しんどくなってきますし、そのあたりはある程度、割り切りかなと思います。

ちょっと脱線話的な話かもしれませんが、ごはんを食べに行っても300円で食べることができるのと1万円必要なところとあり、私たちは選んでいる訳ですね。

そうすると、参加料で選ばれているかもしれない、安い定食屋と思われるのか、やっぱりお金払っても見に行く、あるいは参加すると思われるのかというのは、やっぱりそのお客様の質みたいなものも考えていきませんと、しんどくなってきますし、そのあたりも重ねてお願いしたいと思います。

そしてもう一つのタイプは、自分たちの技術・技能を使ってさまざまな事をやってらっしゃるタイプがございます。まつり家会さんなんかは典型例ですけども、そういう技術・技能は、それがお金に換えられる訳です。そこをうまくお金に換えるという事も必要だと思います。

確かに慰問活動でお金をいただくことが、ちょっとためられる団体さんもございますけど、でもすべて無償で行うというのも自分たちの自立には大変ですので、お金をいただけたところはしっかりといただいて、無償で行うところへ補填をしていただくような、バラ

ンスをとっていただくという事も重要かと思しますので、そのあたりもお願いをしたいと思ひます。

最後に、これは何団体かには、お話をさせていただきましたけれども、公益性という観点はなかなか難しいのですけれど、今日はちょっと別の観点からお話をさせていただきたいと思ひます。

自分たちの事業が地域の住民さん、あるいは八尾市民さんのどれだけにご存知なのかどうか、というところが公益性の別の角度での指標に思ひます。

27万人強の八尾市民がおられますけれども、今日の行事やイベント、あるいはみなさんの団体が活動しているということ、どれだけの割合の八尾市民さんがご存知なのかどうか、これを高めていただくということも公益性をあげていく、ひとつのポイントではないかと思ひています。

私も、いろんなところでご協力させていただいて、地域活動団体さんに、テーマで動いてらっしゃる方、いわゆるNPOさんを認知していただけていないということもありますので、まずは地域で動いてらっしゃる方が、たくさん八尾ではおられるわけですから、そういう方々と繋がっていただくということも今後、意識的にやっていただくとありがたいなと思ひています。

地域に支えられての市民活動というところもあると思ひますので、そのあたりをちょっとお願いしたいと思ひます。

それと、これも何度かお話しているのですけれども、なかなかこういうタイプの申請が出てこないのですが、複数団体の連携の事業というのを、今年度はぜひともいくつか出していただければと思ひています。主催団体はひとつですけれども、3つとか4つの団体さんが協働しながら一つの行事を動かしていくというような、そんなタイプの申請も、もっともって増えていっていただければと思ひます。

80会さんに関連しますが、実は、この4月のこの前の日曜日に、大阪市東成区で市民の有志の方が去年から桜祭りというのをやっておられます。

桜を見ながら午前中半日まちあるきをしましょう、という会を去年始められまして、今里公園という大きな公園で、最後終点はそこでお弁当を食べるという事で去年始められたのですが、今年は、コースが逆になりました。

今までは西から東のコースで、今度は東から西のコースに変わりました。これいくつか理由があるんですけども、一つは、去年は単に桜を見ながらブラブラ歩きましょうという会合だったんですが、歴史の語り部のボランティアさんが、今日もおられますけれども、「せっかく歩くんやったら、わしら一緒についていろいろ話しながら回らしましょうか、桜だけやったら、もったいないやないですか」となって、地域にはいろんな資源があるので、それに解説を加えながら歩きましょうかという事で、歴史の語り部さんのボランティアさんと合体ができました。

そこで、ここがコースが逆になったところのポイントでありまして、最後は玉造駅の前

の小さな広場で解散ということになったんですけれども、そこで待ち構えて下さってたのが、玉造の飲食店の有志の方が、80会さんのような会をつくられてるんですけれども、その方々が屋台を出しておられまして、その屋台の料理を食べて帰るという事なんです。

ですから、今日、歴史のボランティアさんと80会さんがおられましたので、非常に東成の今回の桜まつりの連携のしかたとよく似た事ができるんじゃないかというように思いましたので、ちょっと具体的なお紹介をさせていただきました。

これは、一つの事例ですけれども、もうすでに今日お聞きをしていますと、いくつか連携が始まっているグループさん同士も見られましたけれども、もっともっとうこういう機会を通じて連携が密になっていただくとありがたいなと思いますし、再度お願いしたいのは、ぜひとも地域団体さんと連携を密にして今年度は申請をしていただくと非常にありがたいなと思いますので、また期待をしておきたいと思います。

本当に今日は、長い時間お付き合いいただきまして、どうもありがとうございました。それと、一年間がんばっていただいた団体さん、本当に一年間お疲れ様でした。どうもありがとうございました。